

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(技術・工業・情報) / 林 秀彦

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対して、これまでの授業実践では、学生があらゆる課題に多角的に根気強くチャレンジできるような取り組みを行ってきた。授業内容については、自らが考えて課題を解決できるように単に操作方法を学ぶ内容としないようにしてきた。授業方法については、情報環境を学生が主体的に活用できるように授業方法を工夫してきた。また講義ではプレゼンテーションソフトやタブレットPCを効果的に活用し、理解を促進させてきた。成績評価については、学習管理システムLMSの効果的な活用によって、課題解決に到る過程も含めて評価に反映できるようにしてきた。これらは既に答申を踏まえた取り組みであり、さらに答申後に政権が交代している事情も踏まえて、本年度の授業実践においては、これらを継続して展開していく計画である。

2. 点検・評価

教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対して、これまでの授業実践では、学生があらゆる課題に多角的に根気強くチャレンジできるような取り組みを行ってきた。授業内容については、自らが考えて課題を解決できるように単に操作方法を学ぶ内容としないようにしてきた。授業方法については、情報環境を学生が主体的に活用できるように授業方法を工夫してきた。また講義ではプレゼンテーションソフトやタブレットPCを効果的に活用し、理解を促進させてきた。成績評価については、学習管理システムLMSの効果的な活用によって、課題解決に到る過程も含めて評価に反映できるようにしてきた。授業実践においては、計画通りに、これらを継続して展開していくことができた。またFD委員として活動するとともに、FDの特別公開授業担当者として授業を行うなど、予定通り以上の目標を達成できた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

本年度は、教育・学生生活支援に関わる情報環境の維持・管理をセンタースタッフ等と協力して円滑に進めることで、学生が主体的に活動しやすいようにサポートする。次期システムの更新も円滑に進めていきたい。

2. 点検・評価

本年度は、教育・学生生活支援に関わる情報環境の維持・管理をセンタースタッフ等と協力して円滑に進めることで、学生が主体的に活動しやすいようにサポートすることができた。次期システムの更新も円滑に進めることができた。また情報基盤センターにて「学生ボランティアによるICTサポート」の体制を構築することができた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

本年度は、知識創造とイノベーションに関する国際ワークショップをオーガナイズし、これまでの研究成果の一部を公表する計画である。

2. 点検・評価

予定通りに進捗し、知識創造とイノベーションに関する国際ワークショップをオーガナイズし、これまでの研究成果の一部を公表することができた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

大学運営においては情報の基盤を支える情報基盤センターの果たす役割を認識し、業務が効果的に進められるように、しっかりサポートすることで、間接的に本学の運営に貢献する。また、大学院教務委員等の業務も円滑に進めていきたい。

2. 点検・評価

大学運営においては情報の基盤を支える情報基盤センターの果たす役割を認識し、業務が効果的に進められるように、しっかりサポートすることで、間接的に本学の運営に貢献することができた。また、大学院教務委員等の業務も円滑に進めることができた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属学校園の情報環境サポートをセンタースタッフと協力することで連携を深める。(附属学校)
- ②大学と地域・社会との交流・連携を積極的に行い、社会に貢献する。とくに本年度は教育・文化フォーラムに協力する。(社会連携)
- ②留学生の研究指導や交流, 国際ワークショップを通して実践的な国際交流を図る。(国際交流)

2. 点検・評価

- ①附属学校園の情報環境サポートをセンタースタッフと協力することで連携を深めることができた。(附属学校)
- ②大学と地域・社会との交流・連携を積極的に行い、社会に貢献することができた。とくに本年度は教育・文化フォーラムに協力することができた。(社会連携)
- ②留学生の研究指導や交流, 国際ワークショップを通して実践的な国際交流を図ることができた。(国際交流)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

--